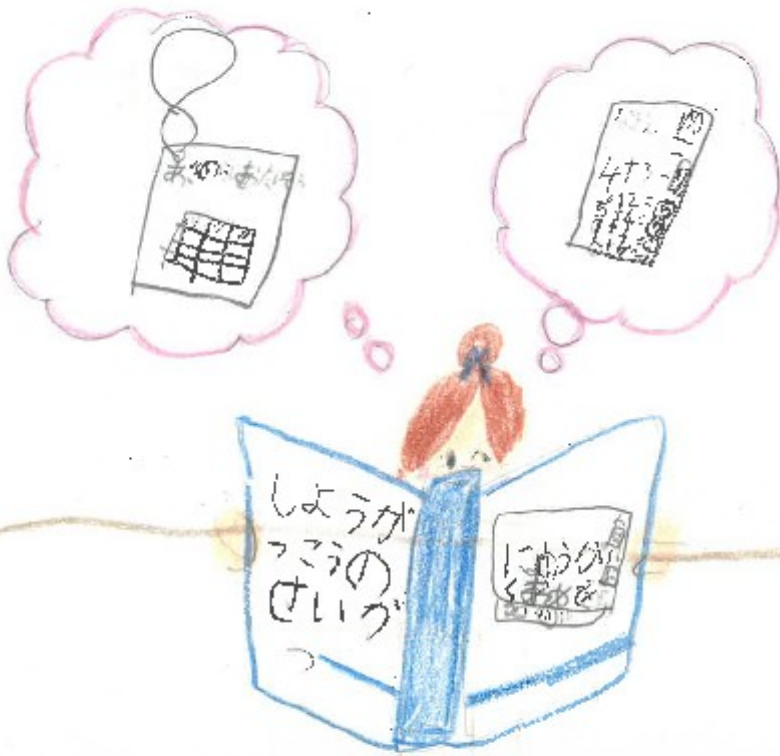


絵日記の部

最優秀賞 ほんをよみます

会津若松市立 小金井小学校 一年 長峰 愛花



た	ん	こ	み	そ	た	む	き	を	
の	ほ	れ	た	し	の	と	で	よ	わ
し	ん	か	く	て	し	わ	す	む	た
み	を	ら	な	く	く	の	の	し	
た	よ	も	り	も	な	わ	ほ	が	は
い	ん	た	ま	り	く	ん	だ		
で	で	く	す	と	ま	し	を	い	ほ
す。		す		よ	す	て	よ	す	ん

小金井 小学校 一年 氏名 長峰 愛花

だいめい ほんをよみます

〈 小学二・三年生の部 〉  
最優秀賞

つるがじょうをたんけんしたこと

会津若松市立 城北小学校 二年 星 明希

ぼくは、えんそくでいいもり山に行つてから、びやっこ  
たいやあいづのことにきょうみをもつようになりました。  
そこで、つるがじょうふしぎはっけんツアーに行きました。  
ボランティアガイドのおじさんが、つるがじょうのひみ  
つをおしえてくれました。おしろの上にいるしゃちほこは、  
目がダイヤモンドできています。おしろは、ぼくにはそう  
見えなかつたので、おどろきました。また、火じのときに  
口から水をだすおまじないのいみもあるそうです。ほかに  
も、りゅうのうろこをあらわしているはしらがりました。  
りゅうは、くもをよんで雨をふらしてくれるそうです。か  
わらのさきには、水のうずとなみをイメージしたもようが  
あつたり、やねの三角のぶぶんには、魚のもようがありま  
した。つるがじょうが火じにならないように、むかしの人  
はいろいろなくふうをしていて、すごいなとぼくは思いま  
した。

そのあとにおとうさんとおしろの中に入ってみました。  
いろいろなものがてんじされていましたが、ぼくが一ばん  
きょうみをもったのは、びやっこたい一人一人のにおえ  
です。石田わすけや、しのだぎさぶろうなど、ドラマで見  
て知っている名前がありました。あいづの名をふきゅうの  
ものとするためにと、ドラマで言っていたことばを思いだ  
して、かんどうしました。

こんかい、つるがじょうをたんけんしてみても、あいづの  
ことがますます好きになりました。はじめてしたこと  
が、たくさんあつたので、また、ツアーにさんかしたりして、  
べんきょうしたいと思います。そして、あいづのれきしや  
びやっこたいのことを知らない人に教えられるようになり  
たいです。

〈 小学四・五・六年生の部 〉

最優秀賞

観光地がきれいな理由

会津若松市立 鶴城小学校 四年 菅原 杏樹

わたしのおじいちゃんは、春夏秋冬つるが城に写真をとりに行きます。カメラマンみたいに写真をとるのがとても上手です。

ある日、わたしが学校へ行く時、ほうきとちりとりを持って、歩くおじいちゃんのすがたが見えました。おじいちゃんは、県立博物館とつるが城の周りを落ち葉拾いをしていました。自分の家の周りではないのに・・・。

そこで、どうして自分の家の周りではないのに、そうじをしているのが気になり、しつ問してみることにしました。おじいちゃんが答えた理由は、四つありました。

一つ目は、つるが城、博物館、文化センターなどは、「文化ゾーン」です。文化ゾーンがきたなかつたら、観光客の人達が、「あいづはきたない（せいびされてない）んだな。」と、いやなイメージがわいてしまうからです。

二つ目は、きたないと思いい市に相談した時に、「あいづ祭り前には、やります。」と言われ、もうしゅう学旅行生もきているから、間に合わないと思ったからです。

三つ目は、去年、さんぼをしている時に、草がぼうぼうの道を歩いて、少しふゆかいな気分になったからです。

四つ目は、ぶつきょうの教えで六度万業という言葉が

あって、その意味は、六つの意味があつて、その中の一つをやることによって、六つのことをやったことになるという意味で、それをやってみたくて、やったそうです。

朝、すずしい時にやるそうです。いつもいつも、一人で、少しずつ少しずつ、出来るはんでやっています。おばあちゃんが言うには、朝から夕方までずっとそうじして帰ってこなかったこともあるんだよとおしえてくれました。

近所の人からは、「いつもいつもおじいちゃん、暑い中おつかれさます。ありがとうございます。」とお母さんが言われたそうです。

また、冬の時は、わたし達の通学路や、じよせつ車がこない道などを、シャベルを持って、雪かきして通れるようにしてくれそうです。

わたしは、前から雪かきをしてきていたことは、わかっていたけれど、落ち葉拾いや、草むしりをしていたことがわかったのは、今年の六月後半です。

親切なことをすると、自分は、後からでも、助けてよかったなと思えるし、親切にされた相手も、いやな気分ではなく、いい気分になります。

おじいちゃんがやることは、一人への親切ではなく、いろんな人への親切です。

相手を思って、だれに言われてでもなく、自分一人でみんなに親切に出来るおじいちゃんは、わたしの一番の自慢です。

## 〈中学生の部〉

## 最優秀賞

## 会津の人の心

会津若松市立 一箕中学校 三年 佐藤 結菜

大人はもちろん、子供でも行った事があるという人が多くと予想できる修学旅行や遠足。私は実際に修学旅行は二回、遠足や校外学習は十回程度行ったことがある。一番最近は、今年の四月に行った、中学校生活を締めくくると修学旅行だ。歳を重ねるごとに感じる事や考える事は増えていったが、どこに行っても共通して感じる事が一つだけあった。それは、「会津のような田舎に住んでいる人は優しく接してくれる」ということだ。

私は今回、中学校の総合のまとめとして、総合発表のテーマを「会津の魅力VS都会の魅力」にした。そして「日本全国の人達は、田舎と都会のどっちに住みたいと思っているのか。」という疑問を解決するために、インターネットで様々なサイトのアンケートを集めた。私は、最初、どうせ都会の方が住みたいと思う人が多いと思っていた。しかし、たくさんのアンケート結果の中には、田舎に住みたい人の方が都会に住みたい人よりも多いものもあり、とても驚いた。しかし、修学旅行を思い返してみると、東京にいる人よりも会津にいる人の方が話しかけやすそうだったし、会津のように私達に話しかけてくれる人は東京には誰もいなかった。また、中学一年生の遠足で新潟に行った時のように、私達の目的地まで周りを案内しながら

連れて行ってくださる、そんな事もなかった。そういう点を考えると、アンケートの結果にも納得できるような気がした。また、修学旅行で気づいた会津の良さはもう一つあった。それは、帰りのバスの中のバスガイドさんからの質問に対する、クラスメイトの返答だった。バスガイドさんが、「東京と会津を比べて会津の方が好きだという人は手を挙げてください。」という質問をされた。すると、クラスの大半の人が手を挙げた。さらに、親が待っていた所の近くまでくると、「やっぱ、会津は落ち着くわ。」と言っていた人もいた。東京の方が景色が新鮮で、あまり手を挙げる人はいないのではないかと思っていた私は、この結果に驚いた。でも、やっぱり会津はたくさんの人から愛されているなと感じた。これらを中心として、色々な新たな発見があった修学旅行だった。

このようなエピソードのように、修学旅行や遠足に行くと、「会津や会津の人の良さ」を知ることができる。便利な都会でなくても、「人の良さ」という部分ではこの会津はすごくいい場所だなということを感じることができた。これからは、田舎でも、会津出身だということに誇りと自信を持って生きていきたい。